

さらに人生の勝算を 高めるために

運の波にさらに乗り、

徳を積んで幸せな人生を歩いていくために、

いくつかお伝えしたいことを書いてみたいと思います。

「Give & Take」はもう古い

「私がこんなに尽くしているのに、相手は全然こたえてくれない」という不満を耳にすることがあります。「Give & Take」という言葉のように、「与えたら相手からも同じように与えてもらうのが当たり前」という考え方を持つ人は多いでしょう。また、「〇〇してくれない」「〇〇してよ」と、欲しがってばかりの欲しがり屋さんもいます。

ですが、**見返りを求めず、とにかく与えて、与えて、与え続ける**。「やってあげた」と考えるのではなく、「私の喜び」と考えることができれば、自身も楽しく過ごせてハッピーです。**このよい気の流れ、これこそが開運の秘訣**です。

無邪気に愛情を注がれたら誰でも嬉しくて、同じように愛したくなります。はじめから「Take」を求めているなくても、自分が尽くしていけば、自然と相手からの愛を受け取ることができます。その方からではなくても、予想外の場面から大きな利息

がついた甘露の雨が降ってくることもあります。この法則を知っておきましょう。

私の周りの経営者で、「自分だけ儲かればいい」という考え方をする人はお見かけしません。皆さん、「愛の先出し」を大切にされています。仲間、社員、家族、社会全体が潤うような幸せが幸せを呼ぶ（輪廻する）仕組みが構築されているのです。

目先の利益を追求しての言動は案外、見破られるものです。その先の未来のための投資です。遠回りに見えて「愛のスピード」は速いです。

相手の星に寄り添う

私は「今日は七赤金星の社長に会うから、この服を着よう。そして、吉方のお店で、手土産を買って行こう」と考え、相手の喜ぶ顔を想像します。実際にお会いして会話が弾み、満面の笑顔が見られたら作戦成功！「これ欲しかったんだよ」なんて言われたら、これ以上の喜びはありません。

相手を想い「いま、できること」をさせていただくことがお互いの関係性を深めて

いきます。お会いするまでの時間さえ楽しくなります。

この一手間をかける！ 大切な時間で、大好きな合間（愛間）です。

東洋思想のリーダーシップの考え方においては、相手を動かすために「私はこうだ」と強く自己主張する必要はありません。相手に合わせて柔軟に対応を変えます。「嬉しそうな顔が見たいな」と行動することによって、結果的には予想もしない展開で、自分が望む行動を相手が行ってくれるケースになることが多いです。私が愛の先出しをされたら「この方のお役に立てるにはどうしたらいいのか」と、最大限の力を発揮したいと心から願います。

ヘルマン・ヘッセの短編小説『東方巡礼』にインスパイアされ、1970年にロバート・K・グリーンリーフが提唱した「サーバントリーダーシップ」も、九星気学を根幹におきながら読むと一味違う楽しみがあります。

相手を思うイメージを深めるためにナインズ・エアーを覗けば、相手が何を考え、

何を求めているかを知る手がかりになります。そしていまの行動から未来を予測するために活用できるのが本書なのです。

仕事では「顧客のニーズにこたえていくことが大切だ」とマーケティング調査を行うのに、自分の周りの人たち——近ければ近い人ほどそのニーズを理解しようとしていないのではないのでしょうか。

相手の願いを理解し、その要求にこたえていく。これはビジネスの世界だけではなく人間関係においても基本中の基本ですね。自分を知って欲しいなら、それ以上に相手を大切に思うことが重要です。親しき仲に「こそ」礼儀あります。その礼儀が「愛」になるように互いの吉方や五行を廻し、育んでいけることに本書が役立てることを願っています。

低調期のときの考え方

運氣にはなかなか思うようにいかない時期や、身体の不調を感じやすい時期があります。本書でいう「土づくり」です。そんなときは、あえて頑張らなくてもいいのです。自身のSOSなので、そのサインを受け入れましょう。もし、海の中に溺れてしまっただとしたら、焦ってもがけば冷静さも体力も奪われて、当然のごとく溺れます。「ああ……いま、沈んでいるんだなあ」と冷静に自分の足首を掴んで体を屈め小さくして、底まで沈めば、自然に浮上していきます。そうしたら一気上昇すればいいのです。

「どうして何をやってもうまくいかないのか」と嘆いてもどうにもならない時期もあります。「いまは低調な時期だもんね」と、ナインズ・エアで理解していれば、腹が括れます。「さて、この苦勞から自分は何を学ぼうとしているのか？」と、その問題を自問に変え、学ぶことに意識を向けましょう。すぐにはわからなくても、時間薬が解決に導いてくれるはずです。大切なことは焦りを周りにまき散らして溺れないことで、「いま」を落ち着いて感じることです。

師匠から学んだことですが、「どうにもならないことがあったら、空を仰いで『わかりました』と、言いなさい。言うだけでいいんだよ」と。

当時、自分ではどうにもできない課題に巻き込まれたときに、教えのとおりに行ってみました。答えは見つけられなかったけれど、私は大きな宇宙の愛に抱かれているのだ！ と、感じる事ができて、自然に涙が落ちてきました。そこそが学びだったでしょう。

自分だけ！ とか、私ばかり独りよがりの渦から、たくさんさんの愛に包まれていることを知るきっかけとなりました。

生きていると、目の前で起こる「現象」に意識が向きがちです。「なぜ、あんなに酷いことが言えるのだろう」「何でこんなにツイてないんだ」と、起こる出来事に対して、つい思い悩んでしまいます。

しかし、もっと大きな流れの中で目の前の現象を俯瞰してみると、「辛いと自分が思っているだけで、いまがチャンス」と捉えることができます。

元・メジャーリーガーのイチロー選手が現役時代、打撃不振から脱したとき、記者がこんな質問をしました。

「どうやってスランプを克服したのですか？」これに対し彼は、「克服なんてしていませんよ。スランプではありませんでしたから」と答えたそうです。イチロー選手は、「ヒットが出ない」という表面的な現象ではなく、もつと多面的に自分の打撃を観察し、「スランプ」ではなく、これはレベルアップするための貴重な機会と捉え、行動していたのです。つまり、思わしくない状態や結果に直面しても、もつと深く、広い視野で状況を観察しましょう。目の前にあるマイナスと自分が捉えている姿を通してみると、これから先の可能性や行動が変化していきます。

人生の最後には「ああ、楽しかった」と思いたいですよね。「大満足！ 面白い人生だった」と思うためにも、いまを大切に生きたいです。

ナインズ・エアーは九星気学が根幹にあり、九星を時間軸で捉えた学問で、帝王学ともいいます。占いではありません。その時間が大切です。1日24時間は全人類平等

です。どう命を輝かせて、どう生きるのか？ 九星気学には神といった崇拜するものはありませんが、見えない力、宇宙の力といった表現をします。この神秘的なこの瞬間に生を受けて、出会う方々は皆、奇跡的なご縁なのです。

壮大な宇宙の流れからみれば、泣きたくなることも、嬉しくなることもすべてが「愛」です。ナインズ・エアーではこの宇宙の時の流れ、春夏秋冬、朝昼晩が不変であるように生命の流れにも不変の法則があり、それに沿って川の流れのごとく自然に寄り添える生き方を提唱しています。冬の次が春と知っているからこそ準備ができ、心構えができます。また、冬を楽しむこともできます。

人生も9年周期で巡っているからこそ、いまを逃せば次のチャンスは9年後です。課題の先送りをせず、今年やる人生の課題をクリアしていけば「時」を大切にすることになり「命」を大切にすることになります。命をピカピカにして「この世のお役」に立てたなら、この奇跡の瞬間に出会ったすべてのご縁が愛おしく思えてきます。

「こういったトラブルがある可能性があるから注意しよう」などと言われると、身構えてしまうかもしれません。でも恐れる必要はまったくありません。自身では何かよ

くないことが起こっていると思っても、実はチャンスです。それらに向き合い、対処することで徳が積まれます。面倒な事態こそ成長のチャンスです。大きな困難は人生でそう何度もあることはありません。不安になる必要はまったくありません。それらがナインズ・エアアの想定するタイミングに当てはまっているかが重要です。土を肥やして、種をまき、発芽させ、大輪の花を咲かせたら、枝には芳醇な実りをつける、みんなと収穫を楽しみ分け与え、次期への期待を寄せてさらに株を太らせていく。不変の流れのままに生きることで、自然とのハーモニーを奏でながら命を輝かせていきましょう。すべて「おかげさま」の心です。

本書を手にとったいただきありがとうございます。たくさんの皆様のおかげで長きにわたり九星気学を学ばせていただきました。経営者の寛大な御支援のおかげで、現実とのすり合わせができ、この経験でリアリティーをより深めることとなりました。机上の空論と揶揄されたこともありましたが、私自身も驚くほどに人生がめくるめく変化してきました。こんなことがあつていいのか？ と、驚いています。普通に暮ら

していれば、ごく一般的な主婦だったかもしれません。

気学はミラクルの連続です。用いれば、即座に叶ってきます。

その中でふつふつとあたためてきた九星気学の、本書では「吉方^{きつぽう}」とも書かれている「方違い」の実験をしました。それは自身の気を高めるために2020年にニューヨークに住むことでした。その生活の中でいままでの学びと経験の棚卸しができ、そしてこれらに基づくこのナインズ・エアアに辿り着きました。なぜか、この実験には必然か偶然か、ほとんど初対面に近い経営者3人と未来の経営者である5歳の男の子が私と一緒にマンハッタンで生活することになりました。同時期に一緒に行くはずだった仲間の1人は単身でLAに行くことになり、それで私は独りでニューヨークに行くことになりましたが、ひよんなことから、この不思議な仲間との「方違い冒険紀行」が始まったのです。その生活は本書では触れていませんが、仲間が日本から遊びに来てくれたり、現地でも友人と会ったり、こんなことがあるのねと不思議な時を過ごせました。機会があればまたどこかで書き記したいと思います。

いまでは、その中の1人は食べるとお腹の脂肪が燃える画期的なお菓子屋さんになり、もう1人はコロナ禍をもとめせずに「天から幸運が降ってきた」と言っている時期にもかかわらず、世界に躍進する飲食店オーナーになり、もう1人は今までのやり方を根本から見直す農業で革命をおこしています。

LAに行ったもう1人は「こんなニッチな世界観があるのか」という面白い企画の不動産屋さんとなりました。

また、少年は小学生になり以前より男っぽくジェントルマンに成長しています。この夏休みには「カブト虫を捕まえてた」と喜んでいます。その笑顔が愛しくて、可愛くて仕方ありません。このニューヨークの吉方は6年間効きます。あなたが偉大な経営者となる日を季世は心待ちにしています。全員この稀な体験により、渡米する前とはまったく違う人生に大変化を遂げています。上昇気流に乗ってさらに輝いて行くことを期待しています。

私はいままでのエビデンスを活かして、皆様へ、より具体的に、楽しく、経営に活

かせる気学、ナインズ・エアを届けていくことを使命といたします。

最後となりましたが、これまで支えてくれた仲間、社員、家族、そしてたくさんの経験と実践の場をくれた柴田商事株式会社 柴田貴章社長。本書におきましては、インタビューに答えてくださった経営者の方々。ビックマック株式会社 徳山佳瑛社長、中山麻依さま。株式会社クロスメディアパブリッシング 菅一行さま、三橋京音さま、下井田詠美さま。ライター 藤森優香さま。本書の制作にご尽力いただいた方々に、この場をお借りして御礼を申し上げます。改めてありがとうございます。心から深く感謝致します。

どうかあなただけの人生の種をまいて咲かせてください。